

# 「あかい奈良」創刊50号

奈良の歴史や文化を多彩な写真を交えて紹介してきた季刊誌「あかい奈良」がこの冬号で創刊50号を迎えた。「本当に良いものだけを取りあげたい」との思いから広告収入に頼らない編集方針を取り、スタッフは全員無報酬。4代目編集長の倉橋みどりさん(44)は「だからこそ、スタッフ自身が面白がってテーマを深めていくことができた。今は資料があまり残っていない明治時代にもスポットを当て、後世に残る物を作りたい」と意気込む。

(須藤祐介)

「最近、小さな社を熱心に押んでいる夫婦を見かけたで」「何か縁起がある社かもしれないな。調べてみよう」――。奈良市高天町のビルの1室にある編集局では毎月2回、フリーの編集者やカメラマンら5、6人のスタッフが熱く議論を交わす。自由に意見を言い合った結果が、毎月、ユニークな誌面につながっている。

県内の地域誌がまだ少なかった1998年、奈良市で印刷会社を営む沢井啓祐さん(63)が「奈良の知

間を呼ぶなどして輪が広がり、スタッフは現在約30人にまで増えた。

宗教学者の山折哲雄さん、歌手のさだまさしさん、彫刻家の藪内佐斗司さん――。毎月、インタビューで奈良にゆかりのあるゲストが登場。

奈良を中心に活動を続けてきた写真家・井上博道さんの風景写真に詩人の西村博美さんが詩をつけるコーナーのほか、江戸時



「奈良のことをもっと深く知ってほしい」と話す倉橋さん(奈良市高天町の編集局で)

## 「本当に良いもの紹介」

代の東大寺大仏殿の再建にかかわった大工・中井大和守の生涯や、1000年前の平城遷都1200年祭をテーマにした特集も反響を呼んだ。

倉橋さんは山口市出身。以前から大阪市内で編集の仕事をして、結婚を機に奈良市で暮らしていた。「せっかくならもっと奈良のことを知りたい」と1999年、編集局に入った。

2006年の春号(31号)から編集長に就任。一番見せたい物を編集会議で決めて取捨選択を行い、シンプルな雑誌作りに努めている。

「奈良は歴史の足跡が地層のように残っている。何号やってもネタは尽きることがありません」と倉橋さん。「読者が何年たっても読み返せるような雑誌作りを今後も目指していく」と決意を新たにしている。

A4判で、500円。全国の書店で販売。問い合わせは編集局(0742・205044)。